

電気通信大学 平成16年度シラバス

| | | | |
|---------|--|----------|--------|
| 授業科目名 | 音楽A | | |
| 英文授業科目名 | Music A | | |
| 開講年度 | 2004年度 | 開講年次 | 1, 2年次 |
| 開講学期 | 1, 3学期 | 開講コース・課程 | 昼間コース |
| 授業の方法 | | 単位数 | 2 |
| 科目区分 | 総合文化科目-人文・社会科学科目-人文・社会科学科目 | | |
| 開講学科・専攻 | 情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科 | | |
| 担当教官名 | 岸本 宏子(学内連絡教官 佐藤 賢一) | | |
| 居室 | 昭和音楽大学 | | |

| | |
|-------------------------|------------|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| chunchan@mb.point.ne.jp | |

| |
|---|
| <p>【主題および達成目標】</p> <p>音楽A・Bの授業は、西洋音楽を歴史的な観点から考察し、その特質を把握するのが目的です。音楽第1では基礎知識とルネサンスまで、音楽第2ではバロックから二十世紀までの音楽を学びます。古来、独自の音楽文化を持つ日本人。けれど「音楽」といえば、まず欧米系の音楽を思う日本人。あなたもきっとそんな日本人のひとり。あなたにとって「音楽」とは何でしょうか。あなたにとって欧米、すなわち「西洋」の音楽とは何でしょうか。西洋音楽は西ヨーロッパに生まれ育ったのですが、その後アメリカ大陸にも伝来し、今では地域によって多少の差こそあれ、全世界に広まっています。これは西洋音楽が、かなり高い能力を内包している魅力的な音楽であることの証明でしょう。西洋の音楽はもともと、時間的にも空間的にも限られた範囲の産物なのですが、それがこれほど広く普遍的に受け入れられているには、それなりの理由があるに違いないと思いませんか。この授業では、西洋音楽の歴史を概観すると同時に、西洋音楽における共通の了解事項、すなわち「楽典」がどのようにして、現在のようなものになったのかを知ることによって、西洋音楽の特質を理解します。</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>なし。ただし、音楽Aを履修した者のみが音楽Bを履修できることに注意。</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>世界史と音楽の基礎知識があることが望まれる。</p> |
|---|

【教科書等】

教科書：坂崎紀著「西洋音楽史」/西岡龍彦著「楽典」

【授業内容とその進め方】

- 音楽A 1 導入 いろいろな音楽文化と西洋音楽
- 2 西洋音楽の定義
 - 3 古代ギリシャの音楽と理論 音と音律
 - 4 中世の音楽(1) グレゴリオ聖歌とその加工/教会旋法
 - 5 中世の音楽(2) 楽譜の意義/なぜ音を記録したか/音には名前がある/音の高さをきめる/2つの音の関係
 - 6 アルスノヴァ(1) 新しい音楽の記録法/音楽にとっての/終止法と音楽の構造について
 - 7 アルスノヴァ(2) フランスとイタリア
 - 8 アルスノヴァからルネサンスへ
 - 9 ルネサンス(1) ブルゴーニュ楽派
 - 10 ルネサンス(2) フランドル楽派
 - 11 ルネサンス(3) イタリアの時代
 - 12 声楽の特質・器楽の特質
 - 13 予備日
- 音楽B 1 ルネサンスからバロックへ 音域の広がりで大譜表
- 2 バロック(1) オペラの誕生
 - 3 バロック(2) オペラの展開
 - 4 バロック(3) 器楽いろいろ 調性音楽と和声法について
 - 5 前古典派 交響曲とソナタ形式
 - 6 ウィーン古典派(1) ハイドン
 - 7 ウィーン古典派(2) モーツァルト
 - 8 ウィーン古典派(3) ベートーヴェン 全音階と半音階
 - 9 ロマン派(1) 器楽
 - 10 ロマン派(2) 声楽
 - 11 ロマン派から20世紀へ 調性崩壊/表現主義と印象主義
 - 12 20世紀 12音音楽ほか
 - 13 予備日

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2/3以上出席して学期末試験を受けることが、採点の対象となる条件です。出欠は数回、厳正にとりま
ず。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けないので、電子メールで連絡してください。

電気通信大学 平成16年度シラバス

| |
|---|
| 【学生へのメッセージ】 |
| 注意：授業の形態は講義中心で、理解の助けとして音楽も聞きます。つまりこの授業は大学生の教養を培うための科目であって、音楽会ではありません。 |

| |
|--------------|
| 【その他】 |
| |